

授業概要

上代から近世までの日本文学史を講義します。

毎回、それぞれの時代における代表的作品を取り上げ、内容の一部を講読します。各作品のテーマや、語り・文体の特徴、作者や時代背景などについて学びましょう。また、前時代からの影響、後代に与えた影響についても併せて説明し、「なぜ各作品に価値が認められるのか」という点についても触れていきます。

日本文学の歴史、および代表的な作品について学ぶことは、現代日本を生きる私たちの生活やものの考え方のルーツを探ることにつながります。その点を念頭に置きながら、各作品に対して共感できる点、反対に理解しがたい点についても、受講生の方々と共に見出していきたいと考えています。

授業計画

第 1 回	「古典文学」について（上代から近世までの文学史概観）
第 2 回	上代文学① 『古事記』、『日本書紀』
第 3 回	上代文学② 『万葉集』
第 4 回	中古文学① 『古今和歌集』
第 5 回	中古文学② 『伊勢物語』
第 6 回	中古文学③ 『源氏物語』
第 7 回	中古文学④ 『枕草子』、『栄花物語』、『大鏡』
第 8 回	中古文学⑤ 『今昔物語』（中世の『宇治拾遺物語』にも触れる）
第 9 回	中世文学① 『新古今和歌集』
第 10 回	中世文学② 『平家物語』、『源平盛衰記』
第 11 回	中世文学③ 『方丈記』、『徒然草』
第 12 回	中世文学④ 『御伽草子』
第 13 回	近世文学① 俳諧（松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶）
第 14 回	近世文学② 浮世草子（井原西鶴）、浄瑠璃（近松門左衛門）
第 15 回	近世文学③ 読本（上田秋成、曲亭馬琴）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ①上代から近世までの日本文学史の流れを理解する。
- ②各作品の作者、時代背景、内容、表現的特徴を理解する。
- ③上記①②を通して、中等教育学校における国語科授業に資する知見を身につける。

履修上の注意

毎回の授業終了時に、ワークシート（授業内容の要約、興味をもったこと、疑問に思ったことを記す）を提出していただきます。また、授業は講義形式で行いますが、適宜受講生の方々に質問を投げかけます。主体的な学習意欲をもって、授業に臨んでください。

予習復習

予習：授業終了時に次回扱う内容を予告するので、下調べをしておくこと。

復習：ノートやプリントをまとめ直し、分からなかった点は教員に質問するなどして明らかにしておく。

評価方法

授業への参加態度 30%、毎回提出するワークシート 30%、期末テスト 40%を目安として総合的に評価します。

テキスト

テキスト：プリントを配布します。

参考文献：秋山虔、三好行雄編著『シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年）の他、授業時に適宜紹介します。